

岡崎嘉平太記念館

だより Vol. 24



吉備真備記念碑表面の吉備真備肖像の拓本

吉備寺(倉敷市真備町)蔵の「吉備真備の肖像画」(小堀鞆音氏画)をもとに線刻されたもの。

吉備真備(きびのまきび) 695~775年

奈良時代の学者、政治家。岡山県倉敷市真備町、小田郡矢掛町周辺を中心に勢力を持った豪族の子孫。遣唐留学生、また、遣唐副使として二度にわたり入唐(足かけ20年間滞在)し、唐文化の輸入につとめ、その知識を政治に反映させた。

吉備真備記念碑落成式



中国・西安市にて。前列中央が岡崎氏、その左が長野士郎元岡山県知事。昭和61(1986)年5月8日。

吉備真備が長安で遣唐留学生として学んだ西安市の「國子監」(今の大学に相当)跡に、昭和61年(1986)春、吉備真備記念碑が建立された。この記念碑の建立場所の決定は難航を呈したが、岡崎氏や岡崎氏と親交のあった中日友好協会名誉会長王震氏の力添えにより、日中両国民の祝福を受けて完成した。

岡崎氏は「小学校三年の頃、母に連れられて高梁川を舟で渡り当時は『箭田の吉備さま』と言っていた吉備さまのお墓に参ったことがある。其後もう一度連れられて参ったと記憶している。当時、落雷を受けて枯れたと言われていた大木の根元にあった墓石のような石の前に立って、両手を合わせて拝んだ。母は何か口の中で祈るような口調で、お願いをしていた。何をお願いしたの、と聞くとお前もよく勉強して、大きくなったら吉備さまのようになるんだよ、と話してくれたのを今でも覚えている。」と思い出を語っている。

(図録『吉備真備碑建立記念』昭和61年(1986)出版・編集より)

拓本とは 木・石・器物などに刻まれた文字・文様などを墨によって紙に写し取ったもの。また、その技法。中国で始まり、朝鮮、日本などに広がった東洋独特の手法。乾拓(かんたく)法と湿拓(しつたく)法の2種の方法があり、乾拓は和紙の上に墨などを当てて写し、湿拓は湿らせた紙の上に「たんぽ」という道具で墨などをしませたものを当てて写し取る方法。

拓本は、中国で唐の時代(618-907)以前にはすでに発明されていた。写したいものに紙をあてて何枚も複製を作ることができるので、現在のコピー機と同じ利用のされ方をしていた。中国では、このように古くから拓本の技術や押印(おういん)の習慣があったため、その後いち早く印刷技術が発達して木版印刷(もくはんいんさつ)が発明されることになった。

秋の特別企画展「岡崎嘉平太の遺品にみる中国文化」開催

平成27年9月22日(火)－12月27日(日)

岡崎嘉平太氏は、「中国人は歴史的にみても高い文化を自らつくり、また、高い文化を自らこなす能力を持つ民族」と賞し深い敬意を抱いていました。そして、戦後は100回の訪中を数え、「中国のような奥深い国は100回行ったくらいではわからない」と語っていたことはよく知られています。

中国との交流を生涯にわたり公私ともに続けた嘉平太氏の遺品には、中国文化の一端に触れられるものが多くあり、興味深い展示となりました。さらには、自ら求めたもののほかに中国の友人または日本の友人等から贈られたものがあり、嘉平太氏の幅広い交流の様も見て取れました。

期間中は1,892人の入場がありました。



鄧穎超周恩来夫人から贈られた
景德鎮の大皿

「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える第14回講演会」開催

平成27年11月15日(日)



Kay Lwintun 先生

この度は、講師にケイ ルイントン氏(ミャンマー連邦共和国ヤンゴン大学生物学部講師、(公財)岡崎嘉平太国際奨学財団11期生)をお迎えしました。

ケイ先生は、「岡崎嘉平太先生に助けられて」と題した講演をされました。東京大学大学院で博士課程を修了された延べ6年間で日本で過ごされた経験について、「岡崎嘉平太先生の遺志で財団が創設され、このおかげで多くの学びや出会いがあり、現在の自分がある」と話されました。ケイ先生は、2004年に帰国、ヤンゴン大学に魚病学研究室を立ち上げられ、研究を深めながら後進の指導に熱心にあたられ、さらには研究環境の変革にも邁進しておられます。明るい気持ちでお話を伺え、力をいただきました。

一方の講師、宮本雄二氏(元在中国特命全権大使で、宮本アジア研究所代表)は、「岡崎嘉平太先生と外交―「信」と「義」の世界」と題して講演され、外交官の当時の状況や心境などを率直に話されました。さらに「日中関係は大事、日中が手を結ぶ以外の選択肢はない」、「外交の現場は現実主義。今日、明日を生き抜くのに現実主義でやってきた。一方、世界を変えるには(嘉平太氏のような)理想を抱く人が絶対必要。理想主義者が道を進歩させてきた」など実感も伺え、印象深くお聴きしました。



宮本雄二先生

本会には、県内外から120人の参加者がありました。講演の記録は、冊子にまとめ後日発刊します。

吉備中央町中国友好訪問団の一員として11月9日から13日までの5日間、中国江蘇省淮安市及び上海市に行ってきた。

私の出発前の中国や中国人に対するイメージは、ひと頃の反日運動の激化や尖閣問題の報道により、正直言ってよいものではなかった。ただ大陸に足を踏み入れるのが初めてであったため、そこがどこであろうが西はコーカサス山脈、ドイツ、フランス、ピレネー山脈更にはジブラルタル海峡に続き南はインドからエジプト、キリマンジャロから喜望峰へと繋がっているかと思うと少しだけ気宇壮大になる。また、初めて韓国に降り立つとキムチ、日本だと漬け物の香りがするという戯文を読んだことがあり、さて中国はどんなにおいがするものか些か興味が湧いてくる。

いよいよ11月9日、上海浦東空港に降り立つ。においは？乗ってきた飛行機の排気ガスのおいしかせず。上海からは専用車でほぼ一日かけて淮安市へ移動。その間どこまでも続く田園風景、スモッグで霞んでいたとはいえ、山は見えず。目を遮るのは高速道路やクリーク沿いに植えられたハコヤナギのみ。田には水稻が植えられており、収穫を待っていた。所々で刈り取り作業が見られたが、2、3人が手作業で刈り取っていた。到着のホテルでさっそく淮安区主催の歓迎レセプションが催され、聞きしに勝る「乾杯」を体験。酒は「國縁」、国賓を迎える際にも使用されるという銘酒。最初口にした時その風味に驚く。アルコール度数は、42度。これを小杯に注ぎストレートで頂く。飲み終わった後、杯の底を相手に見せて乾であることを示すのが作法のよう。初日はなんとかおとなしく終わったが、同じメンバーによる二日目となると、杯から日本酒のお銚子のようなガラス製の器での「乾杯」……、6酌ほど入ろうか。「一度で空けなくても良いですよ。」と通訳の人に教えて貰ったが、相手が空ければつつい……と……ということで大分こたえる。

10日は岡崎嘉平太氏が生涯の師と尊敬した周恩来総理の故居と記念館を案内して頂く。いずれも来客が多い。いかに周総理が中国国民に敬愛されているか目の当たりにする。故居には田中角栄元総理が植えた桜の木と共に岡崎氏が植えた桜の木が枝を茂らせていた。日本と中国の友好関係がこの桜に負けず幹を太らせ、枝葉を茂らすよう祈る。また、記念館は広大な面積を有し、淮安市に暮らす人々にとって周総理が淮安出身であることが誇りとなっている様子が

うかがえた。周総理は自分のために物を残さなかった人と知られており、展示物は報道写真等が大半だった。残念だったのは、岡崎氏に関する展示物が見当たらなかったことである。(私が見落としたのかも知れないが)今回記念品として持参した岡崎氏の遺墨「前事不忘 後事之師」(色紙額)が展示されることを希望しながら陳明館長と固く握手。午後は河川輸送博物館を案内して頂く。ここで、「岳陽樓記」の作者汜仲淹の名前を見つける。今更ながら、淮安と岡山県との縁に驚かされる。

11日は周恩来紅軍小学校を参観。生徒数約4千名、これに見合う、施設設備の充実ぶり。視察用の優良校かと思いきや極々標準的な学校だそう。中国は教育熱が盛んで、小学校、中学校は学区制が採られているが、評判のよい学区に転居する親も当たり前居るそうである。

12日は上海へ移動。上海は、岡崎氏が昭和13年から21年まで一時期を除いて暮らした土地。岡崎氏が華興商業銀行を退職して一旦帰国する前に中国の人々と撮った写真の背景となっている橋が現存し、車で渡る。「ここが上海か。」という思いを改めて強くする。

歓迎して下さった淮安市、淮安区の方々、通訳をして頂いた江蘇省国際交流センターの紀文心さんと、或いは酒の席で、或いは移動中のバスの中で色んな話をし、中国に対するイメージが明らかに違って来た。「息子が東京に留学しているが、東京には美人が多いので心配。」(周恩来記念館・陳館長)、「中国には3才未満の子を預かってくれる施設がないので、親に頼るしかない。日本がうらやましい。」(淮安区職員・王雨青氏)「開発により、古き良き町並み等が失われていくことが残念だ。京都、奈良がある日本は素晴らしい。いつそ日本に住みたい。」(淮安市職員・劉武氏)。お世辞半分としても、本音に近い話が聞けたと思う。実際に出かけて行って、直接見て、話をすることの大切さを感じた。



岡崎嘉平太記念館
館長 河内章男

周総理像の前で陳明館長と

平成27年の3選 News

河内章男館長の就任と中国・淮安市の周恩来記念館などを訪問

4月に神原 清館長の退任にともない河内館長が就任しました。11月には吉備中央町友好訪問団の一員として周恩来総理のふるさと淮安市などを訪れることができました。

ミニ党友会に初めて参加させていただいた

9月28日(月)に開催されたミニ党友会の集いに河内館長、初岡綾子学芸員が参加し、皆さまと交歓させていただきました。党友会は、日中党書貿易事務所の元職員を中心にした会です。大変に貴重なお話がたくさん伺えました。

シェア室「嘉あちゃんの部屋」の開放をはじめる

空調の利用OK、飲食OKの共有スペース、ちょっとした休憩など様々な方にもっと気軽に記念館を利用させていただきたいと考えています。12月には吉備高原のびのび小学校4年の河野つくるさんらによるペープサート「岡崎嘉平太さん」の披露がありました。



これから開催される催し!ご参加をお待ちしています!

平成27年度 吉備中央町 中学生国際交流研修団研修報告会 & 嘉あちゃんのふる里でふれあい座談会

平成27年8月、吉備中央町の中学生8人が中国・淮安市や上海市を訪問し、ホームステイなど交流活動を経験しました。このたび、この中学生が研修を通じての学びや想いを発表します。吉備中央町を代表してかっこよく国際交流をしてきたこども達をあったかく応援したい気持ちでいっぱい催しです。

日にち : 平成28年2月7日(日)
時間 : 午後1時30分~3時30分
場所 : ロマン高原かよう総合会館
2階 女性青年活動室 (住所:加賀郡吉備中央町豊野1-2)
しら ひげ かつ ひろ
ゲスト : 白髭克浩先生
(岡山県立岡山朝日高等学校教諭)
吉備中央児童合唱団

木版刷

小さな道楽
岡崎嘉平太記念館ワークショップ
「小さな道楽・木版刷〜葉書・便箋など〜」

平成28年2月10日(水)
午前9時~12時

会場 : 岡崎嘉平太記念館・嘉あちゃんの部屋(シェア室)
募集人数 : 約10名(先着順、締め切り2/5)

※準備物は全て記念館で用意しますが参加費(彫刻刀代金及びレクリエーション保険代)として1,000円(申込者に詳しく連絡)いただきます。

彫刻刀で版木を彫って、はがきや便箋、ぼち袋など簡単な雑貨をたのしくつくりましょう。初心者でもできます!
参加ご希望の方は岡崎嘉平太記念館まで直接、電話、FAX、Eメール等でお申し込み下さい。

第8回嘉平太が愛したふる里の子ども作品展
平成28年2月26日(金)~3月6日(日)
会場 : 岡崎嘉平太記念館企画展示室

吉備中央町内の6年生の作品を一堂に集めて展示します。力作ぞろいですので是非ご覧下さい。



編集・発行: 岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内
TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066
ホームページ <http://www.okazaki-kaheita.jp>
Eメール okmh@okazaki-kaheita.jp

2016年1月発刊